



Case 1

# 家族を感じながら 美しい光に安らぐ

●兵庫県 K邸

かなえた  
暮らし

リラックスしたい

家族の気配を  
感じたい



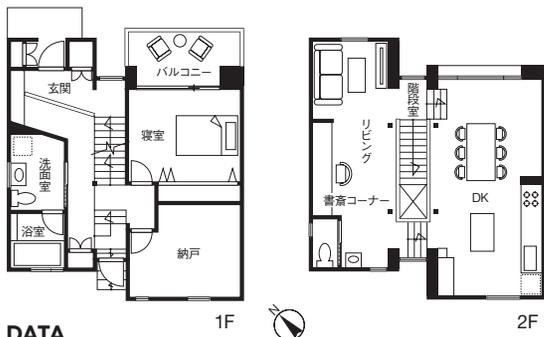
階段の左右に広がる開放的なLDK。  
「家族を感じながら、少しこもって  
落ち着ける場所も欲しい」という  
夫の要望で、ソファコーナーは  
壁で囲まれた一角に。リビング壁  
面はデスクと書棚を造作



元々敷地にあった西から東に下る70cmの段差を利用し、スキップフロアに。トップライトのある階段を通じ、1階にも光や家族の気配が届く。階段越しの緑が目優しい



階段上のトップライトが玄関にもドラマチックな陰影を生み、癒やされる。帰宅した家族の気配は、階段越しにリビングへも伝わる



DATA

家族構成：夫(40代)、妻(30代)、長女(5歳)、次女(2歳)  
 延床面積：136.92㎡ 設計：seki.design

LDKを二つに分ける  
 柔らかな光の谷

Kさんの住まいを特徴づけているのは、建築家が「クレバス」と名づけた階段室。間取りは、敷地の段差を自然に吸収する形で東西の床面に落差を設けたスキップフロア。その二つのフロアの間をつなぐのが、トップライトをもつ階段空間のクレバスだ。建物を貫く細長いトップライトは、光と開放感をもたらしめている。既成概念にとられない自由な発想の家づくりを望んだKさんは、個性的なアイディアの面白さを直感した。

建築家に要望したのは、「広さや明暗にパリエーションのある空間で、変化を感じながらリラックスしたい」ということ。家族が過ごす2階のLDKは明るく開放的で、個室の集まる1階とのメリハリを感じられる。建築家はだんらの形について、家族が常に一緒というよりは、それぞれが好きな場所で過ごしながらも気配を感じ合うスタイルを提案した。

2階では、ダイニング・キッチンとリビングがクレバスを挟んで向かい合う。間仕切り壁はほとんどなく、視覚的には広がりのあるワンフロア。しかし、クレバスがクッションとなり、フロアの高さの違いも相まって、対岸を見渡すような距離感を生んでいる。「私はリビングのソファ、妻はダイニングというように、同じ空間を共有しつつ別々の場所にいるという感じも味わえます」と夫。ソファコーナーは、開放的なフロアの中で少し壁に囲まれた感覚になれる場所で、わずかに距離を感じてくつろぐことができる。「まだ子どもが小さいこともあり、家族みんながほとんどの時間を2階で過ごしています。離れたところからでも子どもが視覚に入るのでも、様子を把握しながら、自分もリラックスしたり家事をしたりできます」と妻。

リビングには書棚とデスクを造り付けた書斎コーナーが。夫は「子どもたちが大きくなったら、並んで使うようになるのかな」と話す。子どもたちは触れ合いとゆとりのある家で、心豊かに育っていくことだろう。

ダイニングには公園の緑を取り入れる大きな窓があり、眺めるひとときは至福。リビングはダイニング・キッチンより階段3段分ほど低くなっているため、沈み込むような落ち着きを感じられる

